

メッセージアウトライン ガラテヤ 6：17~18「イエスの焼き印」

「これからは、だれも私を煩わさないようにしてください。私は、この身に、イエスの焼き印を帯びているのですから」(17)

パウロが「この身にイエスの焼き印を帯びているとは」どういう意味か。考えられることは イエス・キリストの福音を伝える伝道旅行等でうけたむち打ち、石打ちなどの迫害の傷跡、 実際の傷跡ではなくキリストのために受けた苦しみ、迫害の体験。

たぶんパウロは自分の身に受けた迫害の傷跡とその苦しみの体験を思い、このように語ったのであろう。そしてこれこそ彼がイエス・キリストのものであるという名誉あるしるしなのである。

パウロは、自分はイエスの御名のゆえにそのような数々の苦しみを経験してきたのだから、もうこれ以上、誰も間違ったことを言って、私を煩わさないようにしてほしいと言っているのである。

それでは私たち自身にとって「イエスの焼き印」とは何であろうか。私たちはむちで打たれるということはないかもしれないが、イエス・キリストの福音のゆえに、信仰のゆえに様々な痛みや苦しみを経験しつつ、それを身に負うということではないだろうか。 マタイ 10:38~39

私たちはどこへ行っても、どこにあってもイエスの焼き印を身に帯びている者としての生き方を心がけたい。

「どうか、私たちの主イエス・キリストの恵みがあなたがたの霊とともにありますように。アーメン」(18)

パウロはこの手紙を祝福の祈りをもって結んでいる。他の手紙の末尾にある祈りと違うことは、「兄弟たちよ」という親愛の情のこもったことばが入っていることである。この手紙の最初の部分はいかにも戦闘的であったが、この末尾に来てようやく福音の真理が受け入れられることを確信した今、彼は福音の中心であるキリストの愛をもって、「兄弟たちよ」と呼びかけずにはいられなかったのである。つまり、彼がこれほどまでに夢中になったのは、ガラテヤ教会の兄弟たちを愛するがゆえだったのである。

私たちもパウロとともに主の祝福を祈り求めよう。